

谷にある城のあり方

滋賀県立大学 中井 均

◆はじめに

- ・岐阜県中世城館跡総合分布調査 ⇒ 初めて訪れた大桑城【特異な山城構造に驚く！】

中心部はほとんど人工的な加工が施されていない ⇒ 痩せ尾根尾根の自然地形【天然の要害】

※岐阜城の山頂に似る

◆大桑城の構造

- ・古城山(標高 407.5m)の山頂一帯に構えられる ⇒ 南山麓の城下との比高は約 360m を測る【戦国時代では高い山城に属する】

- ・山頂稜線沿いに極めて小規模な曲輪を配置 ⇒ 堀切と曲輪のみの構造【土塁、虎口などが認められない】

発達しない城郭構造 ⇒ 自然地形による防御施設【南北朝時代の山城のように古いタイプの山城構造】

- ・中心部西側の谷筋に展開する曲輪群 ⇒ 少なくとも 10 段にのぼる削平地が構えられている【北方の青波側が正面か】

谷筋中央に通路 ⇒ 削平地はこの通路の両側に展開

- ・石垣、礎石を伴う谷筋削平地群 ⇒ 一見すると城郭構造とはとらえ難いものの、この谷筋に構えられた削平地段は大桑城の中心的曲輪群ではなかったか【谷筋に構えられた山城】

※古代～中世の山岳寺院の坊院跡を利用したものか【聖山に築かれた守護の城郭】

- ・南山麓に展開する城下町 ⇒ 登城道に構えられた巨石を用いた門跡【後の鏡石と同様に正面の登城道に威信を示す構造】

- ・北方に開口する山岳寺院を城郭とする ⇒ 谷を守る東西尾根筋には曲輪を構える【築城と同時に南山麓に城下を構え、正面が南となる】

谷筋の曲輪を守るように南向きの山稜を屏風のように見立て防御壁とした

- ・守護土岐氏はどこに住んでいたのか ⇒ 山城は詰城であるとともに象徴であり住む施設ではない【南山麓の城下町に居館が構えられていた】

※越前の一乗谷朝倉氏遺跡と同じ構造

◆谷筋に構えられた山城

- ・近江守護佐々木六角氏の居城 ⇒ 観音寺城(滋賀県東近江市)は標高 433m の織山の山頂に構えられ、城下からの比高は約 250m【極めて高い山城】
西国三十三観音霊場のひとつである観音正寺が平安時代より存続 ⇒ 聖山としての織山【先行する寺院を城郭化】
山稜部に曲輪を構えない ⇒ 尾根筋に本丸、平井丸、池田丸などの主要部を配置する【観音正寺との関係】
その結果、尾根に挟まれた谷筋にも数多くの曲輪が構えられる ⇒ 観音正寺の坊院を利用したものか【家臣団の屋敷地の可能性が大】
池田丸で検出された巨大な礎石建物群 ⇒ 居住施設の可能性大【山麓居館は守護所としては規模が小さく、山上で居住していた可能性が高く、そのために山上に数多くの屋敷地が構えられた】
- ・虚空蔵山城(長野県松本市) ⇒ 標高 1,139m の虚空蔵山の山頂に構えられ、南山麓の殿村遺跡との比高は約 470m【極めて高い山城】
頂上の山稜はほぼ自然地形で、峯ノ城と呼ばれる最高所にのみ小規模な曲輪が 2 段構えられる
中腹に構えられた秋吉砦と中ノ陣城に挟まれた谷筋 ⇒ 6 段に削平された曲輪の存在【谷筋に構えられた虚空蔵山城の本体か】
北方にそそり立つ虚空蔵山(峯ノ城)と秋吉砦、中ノ陣城に守られた城【石垣、長大な塹堀による防衛ライン】
聖なる山 ⇒ 山名は虚空蔵菩薩に由来するものか【頂上付近に位置する岩屋社の存在】
滋野氏系会田氏(海野・岩下)の居城 ⇒ 天分 22 年(1553)に武田信玄が侵攻し放火され落城

◆谷筋を利用する山岳寺院

- ・中世の山岳寺院 ⇒ 谷筋中央に直線的参道を配し、その最奥部に本堂が位置する【参道両脇には坊院が配置される】
- ・武装化する寺院 ⇒ 谷筋の堂宇や坊院を守るために山頂部や両側尾根に城郭が構えられる
- ・金剛輪寺(滋賀県愛荘町) ⇒ 現在も残る堀切や土塁【明らかに軍事的な防御施設】背後の山頂に「城山」の存在
- ・百済寺(滋賀県東近江市)の城郭化 ⇒ 永正～大永年間(1504～1528)の伽藍再建時期【「要害」「大手要害」「要害奉行」等々の記録(『近江愛智郡志』)】
※現在認められる堀切、土塁はこの時期のものか
「百済寺当(堂)塔伽藍坊舎仏閣悉く灰塵となる。哀れなる様目も当てられず」

(『信長公記』元龜4年:1573)

「兵士等はこの大なるファクサンジ(百濟寺)の僧院及び住屋に火を放ち、悉く之を灰塵に化せしめたり」(『日本耶穌会年報』)

寺院北方の山に北坂本城の存在

- ・白山平泉寺(福井県勝山市) ⇒ 寺院背後の北尾根に築かれた城砦
- 豊原寺(福井県坂井市) ⇒ 谷筋に配置された坊院とその周辺の山頂に構えられた城砦【山城山城(三上山城)、西宮城(西の宮)、雨乞山城】

◆山城を構えない守護

- ・周防国守護大内氏館 ⇒ 当初は築地塀に囲まれた方形の屋敷【戦国時代後半になって堀を巡らせ、最終段階で詰城として高嶺城を築く】
 - ・豊後国守護大友氏館 ⇒ 築地塀に囲まれた方形の屋敷と、同等規模の上原館と呼ばれる平地城郭を築く【最終段階で高崎山城を築く】
- ※一方で播磨国守護赤松氏は置塩城という山城を築く【標高370mで山麓からの比高約310mもある極めて高い山城】しかし、居館を山麓に持たず、山頂部に居館や重臣屋敷などを配置

◆おわりに

- ・大桑城の築城 ⇒ 天文4年(1535)に長良川が洪水【守護所が枝広館より大桑に移る】

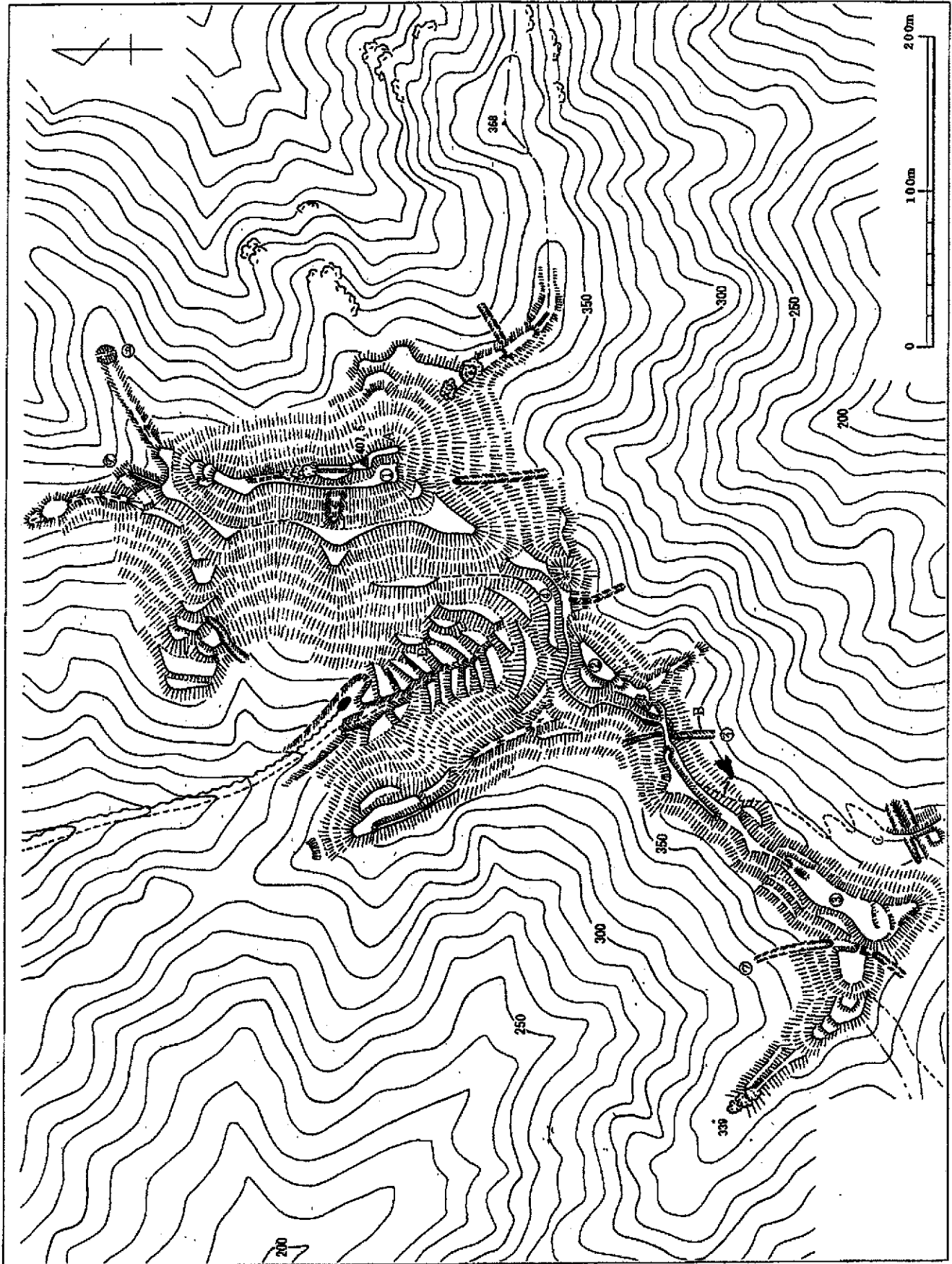
城之内遺跡(枝広館の推定地)より「大桑」と記された木簡が出土 ⇒ 枝広館と大桑城は同時に機能していたか、周到に準備された移転であった可能性が高い

『美濃明細記』には守護土岐頼世の子、頼名が大桑氏を名乗る

『新撰美濃志』には守護土岐持益が大桑萱野に住する

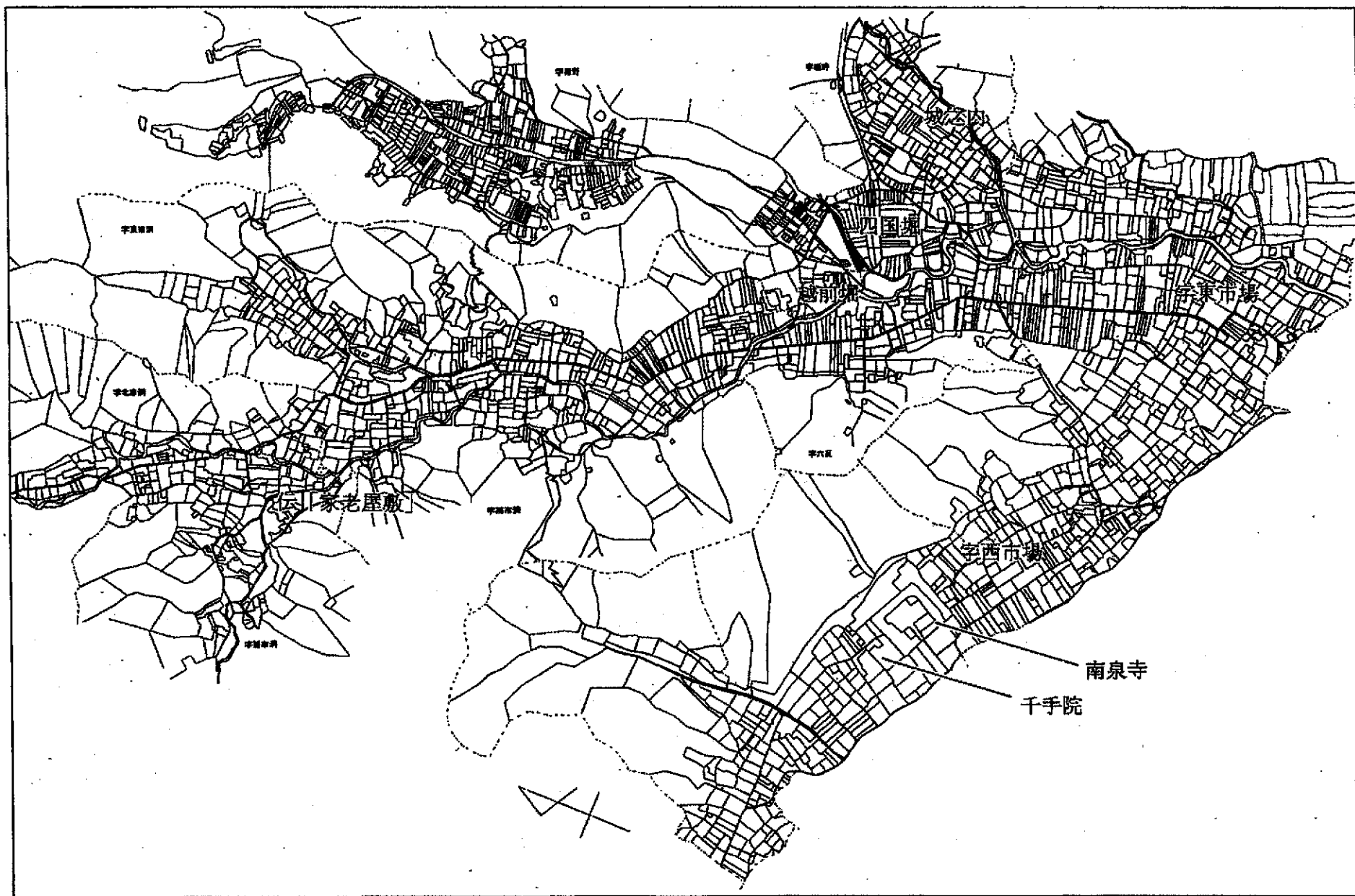
15世紀には土岐氏と大桑には何らかの関わりが存在していたようである。

- ・そうした関係性のある聖山(寺院の存在)に守護所を移す ⇒ 象徴的な山の形【人工的な防御施設は必要としなかったのではないかな】
- ・今後の大桑城跡 ⇒ 地域のシンボルであり誇りである【国史跡指定を視野に入れた総合調査をぜひともおこなってもらいたい】



(略測図 縮尺=1/3500 中井 作図)

図1 大桑城跡概要図



(山田哲也氏作成)

图2 大桑城下地籍图



図3 観音寺城跡縄張図(村田修三氏作図)

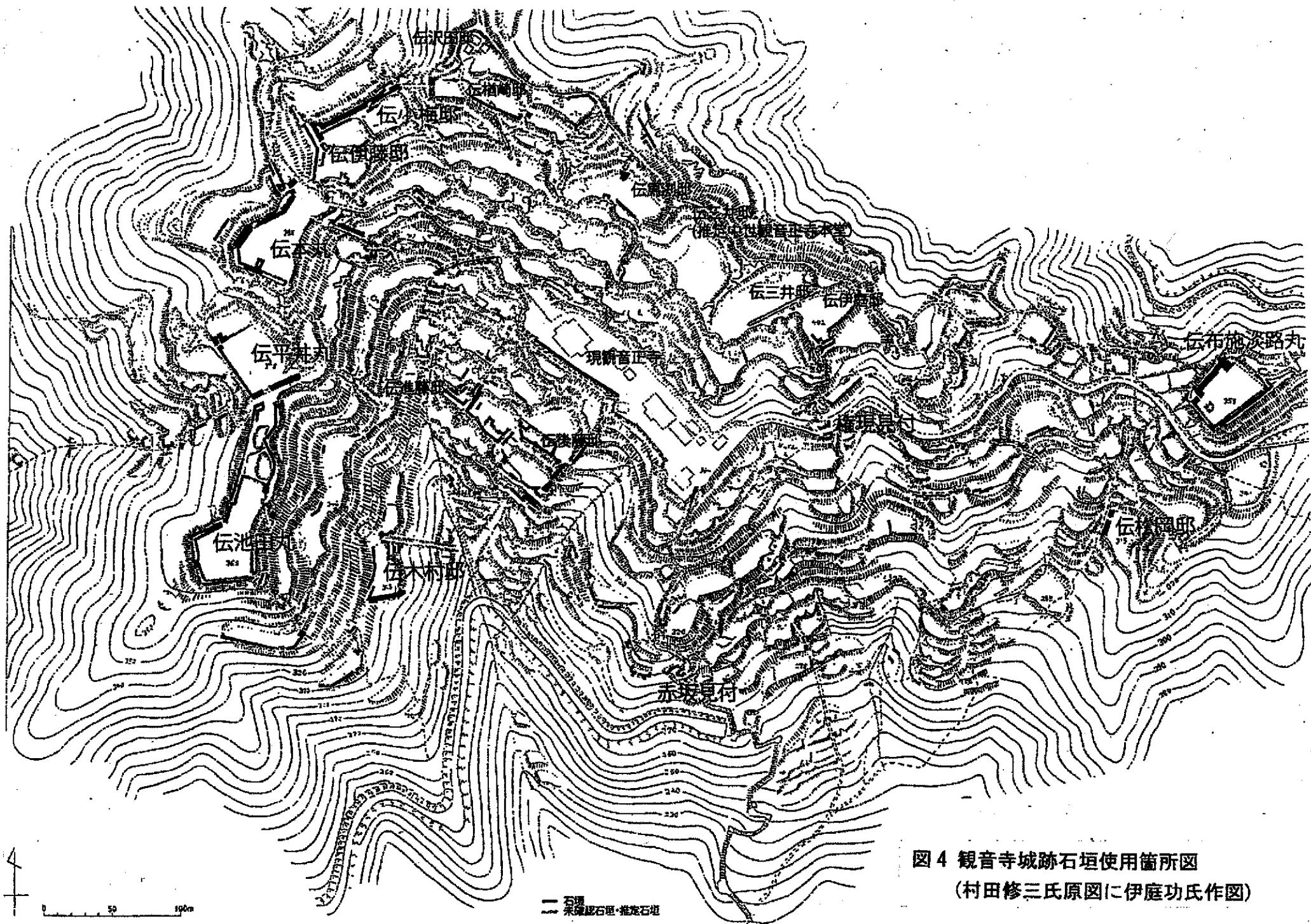


図4 観音寺城跡石垣使用箇所図
 (村田修三氏原図に伊庭功氏作図)

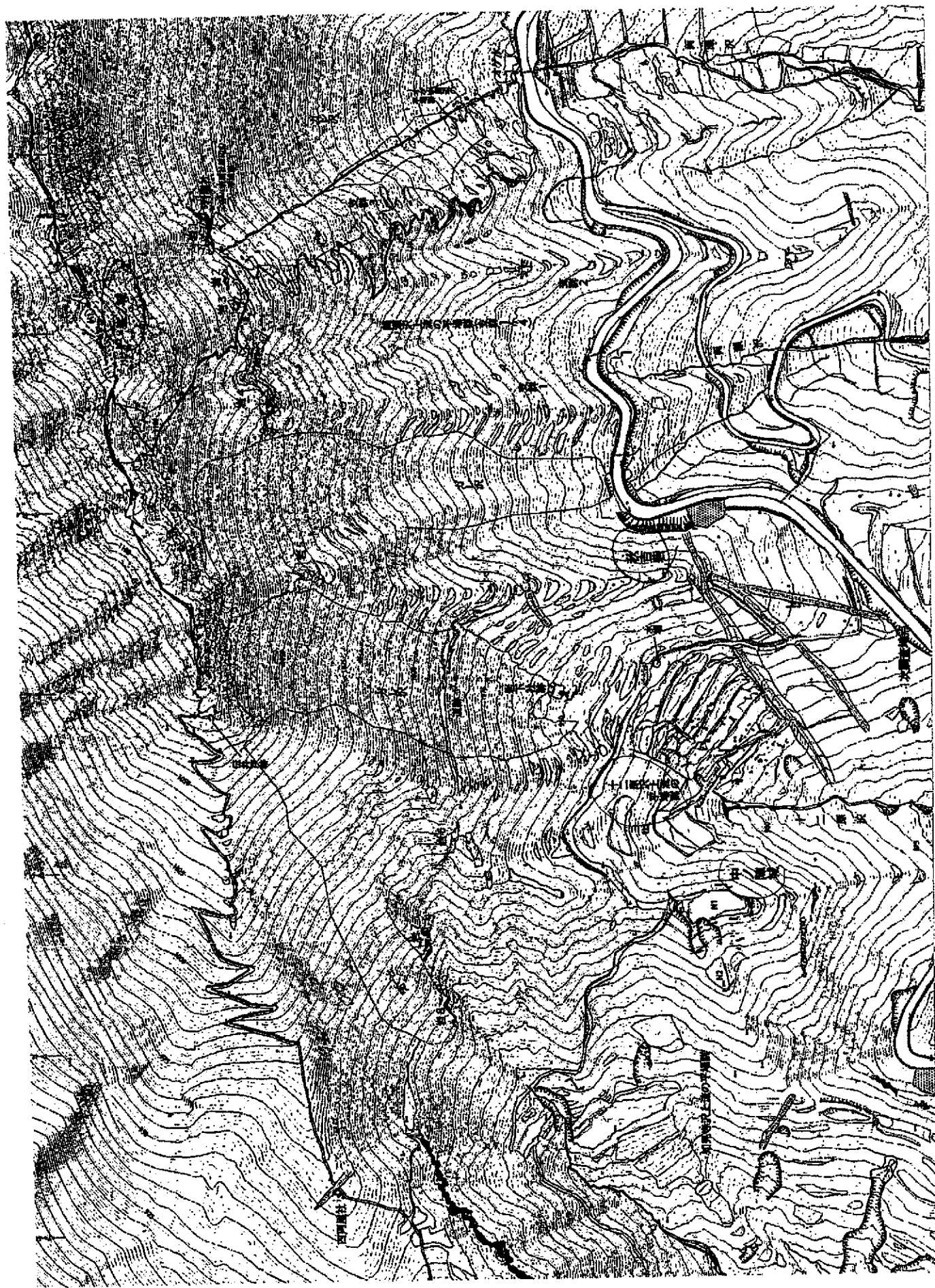


図5 虚空蔵山主要部測量図(松本市教育委員会作図)

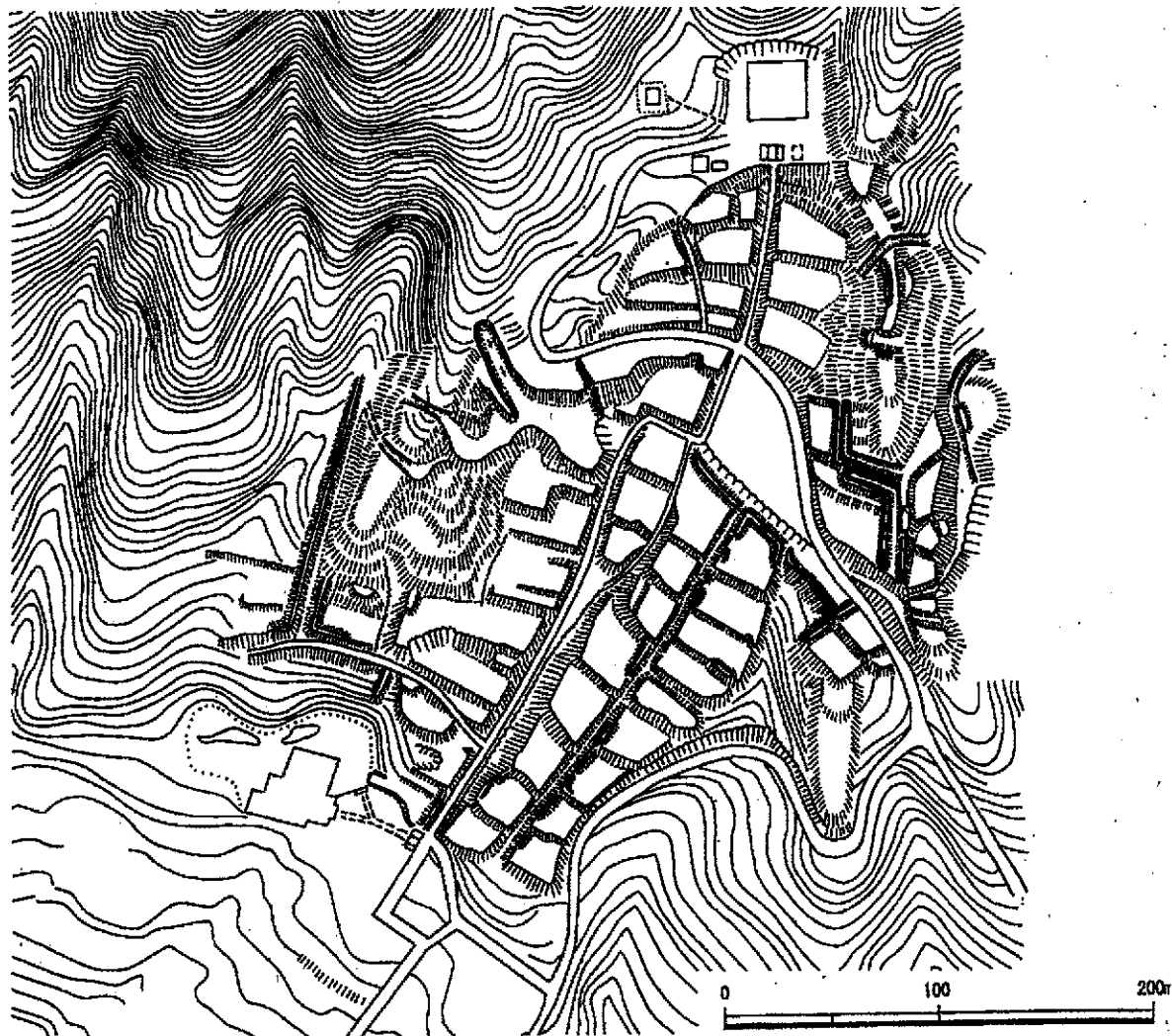


図6 金剛輪寺概要図(中井均作図)



図7 百済寺坊院跡分布図(愛東町教育委員会作成)